

授業科目名	海外実習 A	担当教員	塩川 太郎 姚 瑶 高橋 加織			
必修の区分	選択					
単位数	2 単位					
授業の方法	実習					
開講年次	2年 第4クオーター					
講義内容	台湾の提携大学と協力し海外実習を行う。最初は、実習に必要な中国語の講習や台湾の文化体験、ホームステイなどを行い、台湾の習慣や言語を学んで実習に備える。台湾の生活に慣れた後に台湾中部のホテルにて実習を行い、海外における観光施設での実務経験を積む。また休日等を利用し、台湾の観光地を見学し、台湾の観光文化への理解を深める。					
到達目標	海外において観光業の実務経験を積むことで、グローバルな視野を持つ国際的社会人となることを目指す。また、中国語を学び、その文化を体験することで、国内において中華圏からの訪日観光客への対応ができるようになる。					
授業計画	<p>提携大学の協力で、海外実習を行う。</p> <p>宿泊先：提携大学の学生寮及び現地ホテル</p> <p>期間：第4Q（2～3月）の約2～3週間</p> <ol style="list-style-type: none"> （出発前）「事前講習」実習先の情報や安全対策等の講習、目標設定、初級中国語講座等。 （第一週目）「中国語学習、台湾文化体験」提携大学で中国語や文化を学ぶ （第二週目）「観光宿泊施設実習」台湾のホテルで実習 （第三週目）「観光宿泊施設実習」台湾のホテルで実習 (実習中は日報を作成し、担当教員に報告を行う。) （帰国後）「完了報告」完了報告書の提出、報告会 ※実習期間によっては報告会を台湾実習中に現地で行う。 (現地の事情により予定が変更になることがある) 					
事前・事後学習	<p>事前：事前学習、中国語学習</p> <p>事後：完了報告書を作成（毎日、学んだこと、気付いたことなどを記録する）</p>					
テキスト	なし					
参考文献	なし					
成績評価の基準	事前学習への参加、実習態度（日報等含む）、完了報告等により評価を行う。					

履修上の注意 履修要件	<p>海外実習は、異なる文化圏での活動となるため、相手の文化や習慣を尊重し、危険な行為を行わないように注意して参加すること。</p> <p>病気や怪我等がある学生は履修前に担当教員に相談し、参加可能であるか確認すること。</p> <p>「中国語」を履修していることが望ましいが、履修していない場合でも英語等の外国語コミュニケーション能力があれば参加可能である。</p>
実践的教育	該当しない。
備考欄	<p>提携先の都合や国際情勢により、実習地、内容等は変更になる場合がある。</p> <p>また参加希望者が多い場合は選考を行う。詳細は担当教員に問い合わせること。</p>